

20年来の地域課題に風穴

東京・北区

20年来の地域課題が解決へ——。JR田端駅(東京・北区)にほど近い「第2下田端踏切」に接する歩道で現在、拡幅工事が進んでいる。2005年2月の衆院予算委員会で同地の改善を訴えてきた公明党の太田あきひろ全国代表者会議議長(前衆院議員、次期衆院選予定候補)東京12区)は3月26日、地域住民と共に現地を視察した。

駅や商店街が近いこの歩行者や自転車が行き交う踏切は、場所柄、多くの踏切前後の歩道の幅

は3倍ほどあるが、上部を通る東北本線の高架下の部分は、ガードの支柱がせり出しているため、

では重要な課題だった。1980年代後半から地元住民を中心に、歩道拡幅を求める声が大きくなった。2002年には4745人の署名が集まり、北区議会も住民の陳情を採択したが、事態は好転しなかった。背景には、東京都、J

「現状が一体どうなっている、何が難しいのか。どうすれば打開策があるのか、あえて質問したい」。05年2月25日の衆院予算委員会第8分科会で、太田氏は現地の写真を示しながら、20年もた

た。そして今年1月には具体的な工事がスタート。今秋にも完成の見通しで、ガード下の歩道の幅は2倍以上の3倍に広げられる。住民は「長かったが、もうすぐだね」と感慨深げに話す。

第2下田端踏切

ガード下の歩道拡幅進む

太田質問が国を動かす

R、国土交通省の三者の間で責任の所在がはっきりしなかったことに加え、毎日、多くの歩行者や自動車、電車が行き交

らいついて、さげられている地域の切実な声を政府にぶつけた。太田氏の訴えに、当時の北側一雄国交相(公明

党)は「長年の課題を解決できるよう、しっかりと取り組みたい」と答弁。太田氏の質問をきっかけに国は重い腰を上げ、状況が動き始めた。

太田氏が「たらいつし」を指摘

同年3月には国交省や東京都などが現地視察。三者の役割を決め、騒音や交通への配慮、技術的な課題などをクリアした。

「たらいつし」を指摘。現状が一体どうなっている、何が難しいのか。どうすれば打開策があるのか、あえて質問したい。05年2月25日の衆院予算委員会第8分科会で、太田氏は現地の写真を示しながら、20年もた

た。そして今年1月には具体的な工事がスタート。今秋にも完成の見通しで、ガード下の歩道の幅は2倍以上の3倍に広げられる。住民は「長かったが、もうすぐだね」と感慨深げに話す。

太田議長は「さまざま

な課題に解決への風穴を

あけるのが政治の役割

だ。多くの方の努力が実

り、やっと形になる」と

述べ、引き続き「結果を

出す政治」に全力を挙げ

る考えを強調した。

道幅が1・3倍と極端に狭い。利用者は歩道ですれ違うのにも一苦労。やむなく車道に出る歩行者、自転車も多く、路線バスなどは通行に支障を来し、渋滞や接触事故も起きていた。地元にとつ

今秋にも完成予定 渋滞、接触事故の解消へ



地元住民と共に工事現場を訪れる太田氏(左から3人目)